

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
実社会対応プログラム（研究テーマ 公募型研究テーマ）  
評価用研究成果報告書

課題		『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』 (実社会対応プログラム)			
研究テーマ名		「データベース解析に基づくケア・システムの地域特性の把握と福祉まちづくりデザイン」			
研究代表者	所属機関	金沢大学			
	部局	人間社会研究域			
	役職	教授	氏名	佐無田 光	
委託研究費		単位：千円			
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
3,200	3,600	2,482	930		

### 1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

本研究では、医療費・介護費、要介護度、高齢者の生活実態、医療・介護サービスの供給等に関するビッグデータの解析ツールを開発して、ケア・システムの地域特性を抽出し、多主体・多職種な地域包括ケア、および、高齢者の長寿健康促進のためのエリアマネジメント方針（施設立地、交通まちづくり施策）の策定に反映させる政策デザインを提案する。

上記の目的を達成するために、人社・医薬・理工の領域にわたる学際的な研究チームを組織して、①「国保データベース」の高度活用ツールの開発、②GIS技術による高齢者福祉に関わる空間・時間情報の可視化、③地域特性データに基づく住民理解促進と地域包括支援センターや自治体と連携したアクションプラン、将来計画への反映、④地域特性に応じた福祉まちづくり政策のデザインおよび評価ツールの開発、を順次実施する。主な研究および社会実装フィールドとするのは、急激な人口減少と高齢化の進展に直面している北陸の都市・農村地域であり、比較対象として同規模の関東圏内の郊外小都市を取り上げた。

本研究課題を通じて研究成果としては、第1に、超高齢社会に求められる予防型の地域福祉政策を展開するために、自治体が地域特性をデータで的確にとらえて、予防効果を発揮できるような地域政策を立案し、科学的根拠（エビデンス）に基づいて効果を検証しながら政策を進めていくための支援ツールを開発したことである。

第2に、高齢者データのまちづくりへの展開であり、「見える化」された地域の高齢者・健康データを、狭い健康福祉行政の枠を越えて共有・展開し、超高齢社会を想定した施設配置計画、地域交通計画、防災・避難計画など都市計画領域への政策統合を図ったことである。

第3に、地域の医療・介護経済の「見える化」である。医療費・介護費の総額抑制の面だけを見るのではなく、医療・介護経済が持続的に循環するメカニズムになっていることが重要で、本研究では、医療・介護保険の財政分析、家族介護者に対する全数アンケート調査、医療・介護部門の地域産業連関分析によって、地域の医療・介護経済の実情とケアすべき経済過程を「見える化」させることを試みた。